

とよひら・リンク NewsLetter

発行 札幌市豊平区西岡福住地区在宅医療・地域連携推進協議会 「とよひら・リンク」事務局



とよひら・リンク

ホームページ: <http://www.toyohiralink.jp/>**令和8年度 第1回合同会議を開催しました。**

令和8年6月29日（月）18:30~20:00（会場とオンラインのハイブリット開催）

令和8年度、第1回「合同会議」を開催いたしました。医療・介護・行政関係者等、136名が参加されました。今回も円滑な運営の協力ありがとうございました。

冒頭、今年度から会長に就任した西岡病院 澤田 格 内科部長より当会の15年の歩みの共有（以下掲載）と令和8年度は「救急医療と多職種連携」をテーマとして取り組みことが示されました。また、澤田会長以下、3名の副会長、16名の幹事も紹介されました。

とよひら・リンクの役員はホームページ>とよひら・リンクについてをご参照ください。

<https://www.toyohiralink.jp/about.html> （右側のQRコードからも確認可能です）

とよひら・リンク 活動の変遷

札幌市豊平区西岡・福住地区 在宅医療連携拠点事業推進協議会

■ 朱書き：ACPIに関する取り組み

2011年度～2025年度
15年間の歩み

2011年度 ・厚労省「在宅医療連携拠点事業」を受託 ・協議会設立、東日本大震災	2018年度 ・ICTツール「バイタルリンク」の活用状況を共有 ・北海道胆振東部地震の振り返りを実施 ※地域医療構想に関する会議
2012年度 ・終末期カリキュラム研修会開催、看取り指針作成 ・市民フォーラムを開催／ICT情報共有運用開始	2019年度 ・身元保証人に関する課題を継続協議 ・文科省科研費のACP実践モデル開発研究に協力
2013年度 ・主治医意見書の情報提供用紙を作成し運用開始 ・24時間体制ICTシステムをVer2.0へ改良	2020年度 ・身寄りがない人への対応マニュアルを作成 ・コロナ禍を受けZoomによるオンライン会議へ移行 ※豊平区地域医療構想を推進する会（10/30）
2014年度 ・厚労省「人生の最終段階における医療体制整備事業」受託 ・感染症研修会・倫理研修会を実施	2021年度 ・年間テーマ「食支援」 食事に関する多職種連携 ・SDM研修を活用したACP普及啓発
2015年度 ・地域医療構想シンポジウム開催（1回目、8/31） ・厚労省ACP相談員研修会で講演（全国発信を開始）	2022年度 ・西岡病院コロナ病棟のオンライン見学会を実施 ・札幌市保健所からの講演、BCP策定ワークショップ
2016年度 ・ACPの実践と課題を協議（シンポジウム開催） ・ACP研究会第1回年次大会で先進事例を講演	2023年度 ・年間テーマ「食支援」（症例検討） ・新型コロナ5類化後の影響と対応について講演
2017年度 ・「リンク塾」開講（ACPファシリテーター養成） ・ACP啓発冊子を改訂（リビング・ウィルを統合） ・地域医療構想シンポジウム開催（2回目、11/14）	2024年度 ・感染症対策向上加算による施設への実地指導開始 ・栄養情報連携をテーマに学習を推進
	2025年度 ・年間テーマ「多職種協働による困難事例の支援検討」 ・感染症対応訓練と認知症高齢者の支援を学習 ・PLOS One誌にACPIに関する論文掲載

<<令和8年度のご案内>> 日程は以下の通りです。詳細は後日ホームページに掲載します。

第2回合同会議 令和8年8月24日（月）18:30~20:00 札幌市の救急医療と4学会合同ガイドライン

講師 札幌市夜間急病センター 井上 弘行 先生、札幌総合法律事務所 福田 直之 先生

第3回合同会議 令和8年10月26日（月）18:30~20:00 救急医療連携と感染対策研修

講師 KKR 札幌医療センター 品川 尚文 先生、JCHO 北海道病院・西岡病院 感染管理対策認定看護師

第4回合同会議 令和9年2月22日（月）18:30~20:00

講師 札幌市消防局 長山 英太郎 先生、札幌社会福祉協議会／札幌総合法律事務所 福田 直之 先生

・講演①高度急性期医療機関の救急搬送受入の課題と取り組み

JCHO 北海道病院 長井 桂 副院長に令和 8 年度診療報酬改定もふまえて、高度急性期医療機関の救急搬送受入の課題と取り組みについて講演をしていただきました。増え続ける救急搬送件数に対応する高い救急応需率の維持のために、救急搬送件数の分析結果（不応需の分析も含め）と以下の対策を明確に示して頂きました。

- ① 病床利用率と救急受け入れ（夏季と冬季、時期的な取り組みの変化）
- ② 下り搬送（転院調整）のボトルネック（社会的支援が必要なケースをどの様に対応するか）
- ③ 救急隊との情報連携（受入可否の共有）
- ④ 院内フローの見直し（入院判定やベッドコントロール）

加えて、情報技術（IT）の推進のために ICT を活用した病棟管理や診察における生成 AI の活用などの展望についてもお話しいたしました。

・講演②「三方よし」の連携はできるのか

西岡病院 澤田 格 内科部長に、下り搬送（転院調整）を受ける医療機関の立場として、令和 8 年度診療報酬改定で新設された「救急患者連携搬送料 2」もふまえて、受け入れ機関として高度急性期医療機関への要望や受入後のフォロー体制について、具体的な症例を紹介しながらお話しいたしました。

・講演③地域医療を支える救急搬送体制～札幌市の救急搬送の現状と課題～

札幌市消防局 長山 英太郎 救急連携担当係長に札幌市における救急搬送の現状と現在の取り組みについて講演をしていただきました。平成 28 年から令和 7 年までの救急出場件数と現場到着時間の推移を示していただき（約 26% 出場件数が増加、それに伴い現場到着時間も 2.9 分増加）、救急搬送のひっ迫している現状を共有しました。また、救急搬送基準や救急隊の業務を具体的に示していただき、日々救急隊と接する医療介護関係者にとって有益な情報となりました。

現在、自宅などでの「看取り」とする合意形成がされていたが救急要請をしてしまった場合、救急隊がかかりつけ医に連絡をとり、医師による総合的な判断と具体的な指示のもとで心肺蘇生を中止し、「自宅等での看取りに戻す」ルール作成を行っていることも紹介いただきました。本ルールは令和 9 年 2 月 22 日（月）開催予定の当会第 4 回合同会議でも取り上げる予定です。

《アンケート》

・救急搬送の体制について、詳しく知る事ができました。丁度本日、ご家族から救急搬送の判断基準を聞かれ、返答した経過があったため、今後の返答の根拠として役立てようと思いました。

・当事業所で担当している利用者でも救急搬送される方がいるが、救急搬送先から転院される下り救急搬送等、初めて知ることができた。

・西岡病院をはじめ、JCHO 北海道病院や KKR 札幌医療センターにも救急搬送などお世話になっており、医療機関の病床のことも考慮すると老健施設として出来る限り早めの受け入れをしていかなければならないと思いました。

・今年のテーマはとても興味深いです。救急担当と在宅や施設の職員の意見交流の場になると期待しています。